

時の都合で日本であり日本でなくなる

## 基地を沖縄問題化するな

愛大で立正大・政治学者ラミス氏講演

立正大の金子勝教授の憲法講座（同実行委、愛知大学9条の会主催）が19日、

愛知大学豊橋キャンパス記念会館で開かれた。沖縄在住のアメリカ人政治学者、ダグラス・ラミスさんが米軍基地と平和憲法をテーマに講演し「基地問題を沖縄問題にすべきではない」と訴えた。

### 一重の植民地意識持つ沖縄県民

ラミスさんはサン

フランシスコ出身。

海兵隊を除隊後、日

本での大学教員生活

を経て、2000年

に沖縄に移り住み、

現在は平和運動家と

して執筆や講演など

で活動している。

ラミスさんは最近

の沖縄の世論を取り

上げ、それまでタブ

ーだった米軍基地の

「県外移設論」が

数%しかいないことを、ラミスさんは太

く入ってきて、無視できなくなつた」と指摘。その背景に、日本の中で沖縄にばかり基地が押し付けられる「不平等に対する不満」があると説明した。

全国で行つた世論調査で、日米安保に賛成する意見が80%

近くに達したのに對し、沖縄に限ると10

0%しかいないこと

を、ラミスさんは太

平洋戦争での沖縄戦を引き合いに「基地が戦争を引き寄せる」とはいふことはない。歴史で

磁石になつた。基地が引かれて安全だつた

政治的「要石」になつてゐるからだ」と解説した。

最後に「沖縄県民の間には、アメリカと日本との2重の意味で植民地になつてゐるとの意識がある。日本人はこのこ

道筋として新党によつて安保廃止の政権を作り、官僚を含めた政権構造を作り直さないといけないと提案。「何年かかるか分からぬが、待つてはいる間に基地をどこに置くべきか」

その具体例として、ラミスさんは「日本人の多くは日本安保と平和憲法の両方をほしいと思つてはいる」した上で

と問題提起した。「軍事的に沖縄が『要石』という固定観念があるが、地理的には仮想敵国の中、北朝鮮に近すぎは九州だ」とも指摘。それでも沖縄が

運動は現実を見ないといけない」とも注文を付け、具体的な道筋として新党によつて安保廃止の政権を作り、官僚を含めた政権構造を作り直さないといけないと提案。『政治的「要石」になつてゐるからだ』と解説した。

最後に「沖縄県民の間には、アメリカと日本との2重の意味で植民地になつてゐるとの意識がある。日本人はこのこ

とを真剣に考えないといけない。基地問題を沖縄の問題として片付けることはできない」と強調した。

（中嶋真吾）